

I - B - 31

牛車腎気丸の糖尿病患者の皮膚血流量に対する
効果

大垣市民病院 内科

○鹿野昌彦, 傍島裕司

目的 糖尿病性神経障害に対して牛車腎気丸が有効であることは、近年いくつかの報告にて証明されてきている。今のところ糖尿病性神経障害の治療に対しては、大きく分けて二つのアプローチが考えられる。ひとつは、 PGE_1 製剤などに代表される血流を改善する方法であり、もうひとつは *aldose reductase* 阻害剤などに代表される代謝改善剤である。牛車腎気丸はこの二つの作用をその程度は確定していないが持っており、その相乗効果により糖尿病性神経障害に対して著明な効果を発揮していると考えられる。牛車腎気丸の末梢循環改善作用が非常に著しいものである事は、すでに我々はサーモグラフィを用いて検討している。今回は牛車腎気丸の末梢循環改善作用をさらに詳細に検討するため皮膚表面温度に加えて皮膚血流量と深部体温を測定した。

対象および方法 対象は 19 才から 73 才（平均年齢 53 才）までの糖尿病患者 17 例で男性 13 例、女性 4 例であった。前回の当学会での発表と同じようにツムラ牛車腎気丸（エキス顆粒 2.5 g）を 1 回内服させた後に経時的にサーモグラフィを用いて手と足の皮膚表面温度を測定し、同時に今回は前腕部において皮膚血流量の経時的な測定も行った。皮膚血流量の測定は深部体温と皮膚表面温の測定より求めた。

結果 前腕部屈側における皮膚血流量は牛車腎気丸内服前は平均 $3.8 \pm 1.7 \text{ ml} / 100 \text{ g} / \text{min}$ で、内服後 30 分は 4.2 ± 1.4 、内服後 60 分は 4.4 ± 2.0 、内服後 90 分は 5.0 ± 1.4 ($p < 0.01$)、内服 120 分後は 5.3 ± 1.9 ($p < 0.01$) と内服後 90 分、120 分において著明な皮膚血流量の増加を認めた。前腕部の深部体温は内服前は平均 $34.0 \pm 0.6^\circ\text{C}$ で、牛車腎気丸内服後も明かな変動を示さなかった。手の表面皮膚温は内服後 30 分より有意の上昇を認めた。皮膚血流量の増加は手の皮膚温が上昇しなかった症例においても認められた。

考察 牛車腎気丸は糖尿病患者において、明かな皮膚血流量と表面皮膚温の改善を認め、糖尿病性末梢循環障害に対して非常に有効と考えられた。牛車腎気丸の末梢循環改善作用は強力であり、近年注目されている *aldose reductase* 阻害作用との相乗効果も期待され糖尿病性神経障害に有効な薬剤と考えられた。